

第7回豊田市総合計画審議会 会議録

【日 時】 令和6年10月31日（木）午後2時00分～4時00分

【場 所】 豊田市役所南51会議室（南庁舎5階）

【出席者】

（委 員）

阿垣 剛史	豊田市区長会会長
浅野 智恵美	市民公募
稲垣 令一	豊田市高齢者クラブ連合会会長
大澤 正彦	日本大学文理学部情報科学科准教授 次世代社会研究センター長
大橋 宏	豊田信用金庫理事
加納 実久	新とよパークパートナーズ会長 名古屋工業大学研究員
木村 匡子	関西大学社会学部准教授
佐伯 英恵	(公財) 豊田市国際交流協会理事長
蒔澤 寿一	NPO法人共存の森ネットワーク理事長
鈴木 聖人	(一社) 豊田青年会議所理事長
曽根 篤	連合愛知豊田地域協議会事務局長
永田 祐	同志社大学社会学部教授
中野 貴博	中京大学スポーツ科学部教授
野崎 健太郎	豊田市PTA連絡協議会顧問
畑中 直樹	大阪大学大学院工学研究科招聘教員
弘中 史子	中京大学総合政策学部教授
牧野 篤	東京大学大学院教育学研究科教授
丸井 康弘	市民公募
安田 明弘	(社福) 豊田市社会福祉協議会会長
山岡 正博	豊田商工会議所専務理事
鈴木 学	豊田市副市長
辻 邦恵	豊田市副市長

(計22人)

【欠席者】

（委 員）

大河原 真吾	あいち豊田農業協同組合常務理事
加藤 真二	(一社) 豊田加茂医師会会長
松本 幸正	名城大学理工学部教授

【理事者】

太田 稔彦	(豊田市長)
(事務局) 都築 和夫	(企画政策部長)
青木 勉	(企画政策部副部長)
阿久津 正典	(企画政策部副参事)

野依 真人	(企画課長)	花田 潤治	(都市計画課長)
丹羽 広和	(企画課副課長)	大光 圭二	(都市計画課副課長)
宮川 恭子	(企画課副主幹)	今村 広和	(都市計画課主幹)
上山 輝	(企画課担当長)	西岡 雄志	(都市計画課副主幹)
古田 祥久	(企画課主査)		

【傍聴人】 7名

【議 題】 1 会長あいさつ

2 議題 第9次豊田市総合計画（答申案）について【資料①】

3 報告 計画の推進に当たって【資料②】

参考資料1 第6回総合計画審議会意見に対する考え方・対応状況

参考資料2 「これまでの議論の状況等」

(パブリックコメント・Eモニターについて)

参考資料3 ミライ実現戦略2030に資する事業の検討状況（情報提供）

参考資料4 第9次豊田市総合計画（概要）

4 その他（今後のスケジュール）

・答申 令和6年11月12日（火）15:00～16:00

【議 事】

■ 会長あいさつ

（会長）

こんにちは、今日が最後の審議会となります。よろしくお願いします。今日で10月も最後ですが、まだ気温が高くなっており、気候変動や温暖化の大きな影響があるのではないかと感じています。

天文学者の間では、以前から2100年に地球の気温が4度くらい上昇し、私たちの子孫は過酷な状況で生きることになると話していました。最近では、2100年に人類が滅亡しているかもしれないと言い始めており、生活の在り方を変えなければならない状況です。さらに世界的にも戦争の問題がありますが、今後は東アジアに飛び火をする可能性や、世界戦争になるかもしれないという議論があります。

日本の政局も動いていて、石破政権は地方創生を掲げているが今後どうなるか、今までの地方創生の議論の中で欠けているものがあるのではないかと思います。育成するといった人材論がなく、即効性のあるものを選んで地方自治体が取り組んできたが結果的には機能していないのではないか、人材を育成するなど育成型の施策を考えなければならないと言われていきます。

全国の動向を見ていると、自分も全国あちこちを歩いていて大きな動きがあると感じています。通信制高校では、定員数の2万人を超え新たな高校を開校している事例やオンライン大

学を開校した事例も出てきており、こどもたちの学びの形態も変わってきています。愛知県でも全日制と通信制を併用する学校が人気を博していると聞いています。

島根県益田市は、こどもと大人が対話する「カタリ場プログラム」を実施してきた自治体であり、こどもたちが新しい組織を作り、政策提言を行っています。その事例を参考にしながら、豊田市でも新しい取組を始めると生涯学習審議会で議論しています。北海道根室市では、大学進学ではなく高校卒業後にまちづくりに取り組みたいといったこどもが増えており、市役所採用試験には10名を超える高校生が受験しているなど、高校生から行政に関わりたいといった事例も出てきています。

今回の総合計画でも、新しい時代に向けて、私たちが次の世代をどう育成していくか考える必要が出てきています。教育振興計画では、持続可能な社会の「担い手」の育成ではなく「創り手」といった表現に変えています。担い手ではなく、創り手として育成して、そのあとは彼らに任せるというスタンスをとらないといけない時代になってきているのかと思います。そういったことも踏まえて、今日は最後の答申案が出てきているので、委員の皆さんから忌憚のないご意見を頂いていいものにしたいと思います。よろしくお願いします。

■ 出席の確認

- ・オンライン参加（弘中委員）
- ・3名の委員が欠席

（会長）

それでは議事に入らせていただきます。式次第の議題について、事務局からご説明をお願いします。

■ 議題 第9次豊田市総合計画（答申案）について【資料①】

○事務局 資料①に基づいて説明

■ 意見交換

（会長）

ありがとうございました。これからただいま説明のありました資料①の第9次豊田市総合計画（答申案）についてのご審議をお願いしたいと思います。私の方でいくつか分けさせていただいてご意見をいただいたあと、最後まとめてご意見を頂きたいと思います。

では、序論から計画策定の背景までについて、ご意見がありましたらお願いします。

（A委員）

参考資料として、概要版も配られていますが、今回の審議会資料としてだけでなく、概要版も公開して一般市民の方も見るということでしょうか。

（事務局）

そうです。計画本編はボリュームがあるので、概要版として多くの方に読んでいただけるように作成しています。

（A委員）

概要版と本編を照らし合わせながら議論を進めればよいということでしょうか。

(事務局)

概要版は、本編を抜粋した内容になっています。

(会長)

概要版は本編をわかりやすく説明するために抜粋しているものなので、答申案である本編をベースにご意見をお願いします。序論から計画策定の背景までについてご意見ご質問はありますか。豊田市の特徴、環境の変化と課題など書かれていますが、特に発言はよろしいでしょうか。

大きな問題として気候変動、構造的な転換があるので、そのことをもう少し前に出して書いてもいいのかなと思います。構造的な問題が私たちの生活を脅かしており、足元のコミュニティを見直さなければならなくなっているのが豊田市の状況です。ここでは、豊田市だけの人口構造が書かれていますが、環境の変化や直面している問題について、書き込んだらどうかと思っています。そこが今後の市の方向性や都市や農山村との連携にも関わってくると思います。

では、第2章についてご意見はどうでしょうか。

(A委員)

何回か前にも発言しましたが、まちづくりの基本的な考え方について、言葉の表現がしっくりきていません。内容には賛同していますが、もう少しわかりやすく適切に表現できないでしょうか。

例えば、4つの発想の転換と3つの変えるといった表現がありますが、どちらも「変える」なのでわざわざ区分しているのも違和感があり、発想の転換も3番だけ、転換でないものが混ざっているように見えます。本編をじっくり読めば、納得できるかもしれないが概要版を見た際に違和感があったので、市民も同じように思うかもしれません。

(会長)

内容はよいが、言葉の表現をどうするかというご意見ですが、委員から対案はありますか。

(A委員)

4つの発想の転換のところで、足し算と掛け算が浮いているように見えます。2番と3番は、ないものを補う足し算と、あるものを生かし組み合わせる掛け算的な思考という意味では同じことを言っているように思えるので、統合しても良いのかなと思います。

3番については、足し算の思考をやめるわけではないので、転換ではないと思います。足し算だけでなく、掛け算も組み合わせた発想への転換といった表現にしてはどうでしょうか。

3つの変えるについては、気づく、考える、行動するというカッコ付けがどういう位置付けなのか読むときに引っかかったので、例えば3ステップで実現する行動変容とった表現でも良いかもしれません。最終的に私たちの行動を変えるための3つのステップだという意味合いではないでしょうか。見方を変えるから思考を変える、思考を変えるから行動を変えるという事かもしれないなと思いました。

(会長)

事務局、委員の皆さまいかがでしょうか

(B委員)

3つの変えるについて、そう言われると変えなくてもよいのではと思います。変えようとしなくても変わってしまうものかもしれません。市民が受動的なお客さんで、市役所が頑

張るということではなく、市民がより能動的に動くための3つのステップということではないでしょうか。そういうニュアンスがあると、市民も自分事になるかと思います。市の構想は自分の暮らしのことだと思ってもらえるきっかけがここに書いてあるといいと思います。

(会長)

19 頁の上段で、これが大事、社会の変化があるといった内容を説明したあとに、将来像の実現に向けて市民と行政の行動規範となるまちづくりの基本的な考え方を示すとしているが、その考え方として4つの発想の転換、3つの変えるといった表現がわかりにくいのではないかと指摘かと思います。

(事務局)

今指摘があったように、4つの発想の転換の下に、意図しているものは何かという説明や、3つの変えるの下に、市民に対して能動的に動いていただけるようなステップですよというわかりやすい表現を加えるのもよいかと思いました。また文案を考えて最終案に入れ込みたいと思います。

(A委員)

本編はボリュームがあるので、若い人は読めない、読まないと思います。できれば概要版を読んで理解してもらえるような表現の工夫をする必要があるかと思います。説明として読み込めば、若い人も納得してもらえると思うので、ラベルの一言を読んだ時にも伝わるとよいと思います。

4つの発想の転換の方が具体的な表現となっていて、3つの変えるでは抽象的な表現になっているように見えました。抽象的な話をしてから具体的な話を説明するのか、その逆なのかなど、見せる順番についても議論があってもいいと思いました。

(事務局)

最初に、総合計画を羅針盤と掲げさせてもらったように、市民に見てもらい、考えてもらいたいと強く思っています。特に市内に住む若い人に読んでもらえるように、デザインブックにするなど、見せ方も工夫しながら、ご意見頂いたように足し算、掛け算も改めて考えていきたいと思っています。

(会長)

最終的に会長と事務局に一任となるため、良い表現があるか考えていきたいと思っています。次に第3章は、ミライ実現戦略 2030 ということで、2030 年に向けてどういう形で豊田市の将来を考えていくかという事が書かれています。はじめにから視点の3までについて、意見はありますでしょうか。特に注視する視点という事で書かれていますがいかがでしょうか。

(C委員)

人口に関して、社会動態の見通しは難しいと9ページに書かれている一方で、27 ページでは従来型では見通しが難しいと言いつつ、人口減少が確実と書いています。その点が、矛盾しているように見えます。例えば、人口減少が進むことが予想されるなどの表現に変えてはどうでしょうか。

28 ページの出生数の推移について、図表を見てこんなに減ったのかとびっくりしたが、左の軸が2,000 から始まっています。必ずしも0を起点にしなくてもいいですが、右側の軸の合計特殊出生率は0が起点なので、数値を見ずに視覚的に認識した場合、若い人を見るとミスリーディングにつながりショッキングに見えるのではないかと思います。

(会長)

事務局で、修正をお願いします。

(D委員)

26 ページの一番下の段落に、人口戦略会議のことが書いてありますが、エッセンスとしては、女性の若年層の人口が減少しているので、その人に対しても働きやすく住みやすい豊田市になるべきだという事だと思います。ただ、人口減少戦略会議の話があることで、女性が出産するから女性の人口を増やさないといけないといったミスリーディングにつながるかと思います。女性に、こどもを産んで欲しいからここにいてほしいという誤解を避けるため、若年層女性に対しても住みやすく仕事しやすい都市になっていくべきだという表現にした方がいいと思います。

(会長)

事務局の意図としては、委員の説明の通りですね。

(事務局)

そうです。

(会長)

では、記述を検討したいと思います。

(E委員)

30 ページの視点2について、新しいチェンジ、チャレンジを謳っているのですが、その部分をもう少し強調してはどうでしょうか。従来は保護や支援の対象となっていた人たちが主役となり活躍していくといった内容が伝わるようなチャレンジを、具体的にイメージできるように説明できれば、地域共生社会といったイメージがぼんやりしている方にも伝わりやすいかと思います。

(F委員)

30 ページの誰もがつながり合うまちづくりについて、富山県には知事政策局成長戦略室に、ウェルビーイング推進課が設置されています。富山県の人口は約 100 万人とのことですが、ウェルビーイング先進地域を目指す戦略として、富山県民はもちろん、より多くの多様な人々がつながる、集まる、交流が活性化する関係人口増を目指し、幸せ人口 1000 万人の指標を策定されています。関係人口増をめざすという表現に魅力を感じたので、誰もがつながり合う説明で、豊田市民だけでなく、より広く関わるような書き方であるとよいと思います。

(B委員)

27 ページの選ばれるまちをつくるの中で、豊田市が住みたいと思える魅力あるまちであることが重要と書いていますが、人口減少が進んでいる中で、住みたいことが大事だということは、他のまちから人口を奪ってくることになるようにも見えます。住みたいだけでなく、訪れたい、関わりたいということを加えていただくいろいろな関わりができるし、チェンジチャレンジと関わりしろがあるということを書き加えてほしいです。

(会長)

住みたいと思える魅力とは、住むだけなのか、関わっていく、関心があって一緒にやっていくことも含めて共生社会につなげられないかといったご提案だと思います。豊田市の総合計画ではありますが、豊田市に関わりのある人がそれぞれの形で関わり豊田市をつくり、弱者も支援の対象であるだけでなく、活躍していくということかと思います。この点も少し、

事務局で考えていただきたいと思います。

（事務局）

人口減少社会において重要な視点なので、考えたいと思います。

（会長）

ミライ実現戦略2030の36ページから45ページまでの取組目標①と②に係る内容について、皆さんからご意見ありますか。

（A委員）

方針案全体として、「つながる」という言葉を大切に使用しており、つながるとかつながり合うといった表現の中で、その対象は、人と人がつながるという場合が多いと思います。その中で、ミライにつながるといった表現は、現在から未来への矢印として「つながる」の表現を使用しており、他と異なる使い方をしているので、このままで良いのか疑問に思いました。

文章の中でも、取組方針1で、「誰もがつながり合いの中で」と表現しており、2章の「つながる」ところでは書かれていません。例えば、取組方針2でともにミライのまちをつくると表現しても良いのかと思います。取組方針1は現在につながる話で、取組方針2はミライにつながる内容というようにも読み取れるかなと思います。なので、取組方針1はミライの表現があった方がいいのか、取組方針2はつながるといった表現があった方がいいのかという点は議論の余地があると思います。

（会長）

つながるというのは、人と人がつながりをつくって暮らしを楽しみ、それは社会をつなげていくという事務局の思いもあるかと思います。ミライに向けて子どもたちに向けてという時系列の話の中でもつながるといった表現は出てきます。つながるつくる暮らし楽しむは、未来につなげる、過去とつながっているという事も含めています。

ともにミライにつながるまちをという場合、次へ次へと展開してミライの新しいまちをつくりながら、ミライにつなげていくという意味もあると思います。

（G委員）

つながりという言葉は3つの視点があり、人と人がつながる、世代がつながる、時間軸でものを考えるということかと理解しています。その点で言えば、未来とつながる際に、今と未来だけになっていて、過去の時系列が抜けているので違和感があったのかと思います。この時点で、そのように修正した方が良いという意見ではありません。

あと1つつながる視点があるとすれば、会長が話していたように自然と人がつながることかと思っています。その点では、脱炭素社会の項目が関連してきます。今日の意見を聞きながら、震災や気候変動、食糧、エネルギーなどの人間が生きるベースのものと人間がどうつながるかという視点が少ないかもしれないなと感じました。骨格を変える必要はないですが、つながるのは人と人だけではないし、ミライだけ見ても過去とつながらないし、自然とつながらないのは空虚なので、今後の施策を検討する際にその視点を踏まえて検討をお願いしたいです。

脱炭素社会になるミライをつくっていかないといけないと行政は考えていると思いますが、この前市長がスピーチしていたように、里山の暮らしの中に答えがあると私も思います。昔の社会はまさに脱炭素であり、モノを大切に使う循環型社会でした。ミライは、新しくつくるだけでなく、過去の中に答えがあるかもしれないです。今の技術レベルを使ってどうやっ

てそこにアプローチしていくのかというのが豊田市の答えかもしれません。具体の施策を行う際にその視点はぜひ持っていただきたいです。

（事務局）

今の発言はその通りで、18 ページにまちづくりを考えていくなかで何を大切にしたいか記載しています。多様な人と人、世代と世代、人と地域・自然を通じたという表現をしており、過去も含め意識をして書いています。ただ、5年間の注力といったときにそのキーワードが薄くなっていると思うので、どう表現するか考えます。

（E 委員）

38 ページ、人生 100 年時代について、地域共生社会の観点から重要だと思っています。39 ページにある具体的な施策で、大人の学び活躍を支援する機会の充実を掲げています。とても重要だと思いますが、2 つ目の冒頭で、「大人がこどもたちの遊び学び・体験に積極的に関わりながら」と具体的に表現していますが、なんとなく学び合いの機会を狭くしているように思えます。

これが重要だという事は理解できますが、大人とこどもだけでなく、企業や団体間のプラットフォームで学びの機会ができていくと思います。あえて限定することで、関わる人が狭まっているような印象を受けます。企業を通じた巻き込み方や、団体間のプラットフォームも文章の中から読み取れるといいなと思います。

（会長）

表現を変える、加えるということで、検討いただけますか。

（事務局）

はい。

（H 委員）

10 月は毎週祭り、祭典に関わっていました。祭りは、地域の年寄りからこどもまで参加するので、良い学びの場だと思います。祭りについて、具体的に書く必要はないと思いますが、豊田市独自の歴史文化である棒の手や農村歌舞伎に触れて、歴史文化を教材化していくという考え方もあって良いかと思います。例えば、36 ページの最後の方で、先進的な教育やプログラム作りに、文化の例として祭典を生かしていくと、独自性が出るのかなと思います。祭りに真剣に取り組む大人を見て、こどもも学びその文化を受け継いでいくので、祭典は重要だと思います。

（会長）

コロナの影響で祭礼や伝統芸能が3年ほど中断し、その後復活せずに面倒だからやめてしまうといった地域も出てきています。そうすると、地域が壊れて引きこもりが起こるなどの問題も生じます。お祭りや伝統芸能をこどもに対して大人と一緒にやって行い、受け止めて、承認関係を持っていないと地域の祭礼やまちのことは他人事だとこどもたちは思ってしまいます。地域社会全体でこどもをどう受け止めて承認関係をつくっていくのか、人間の関わりをつくっていくのかということは、検証が始まっているので記述を深められたらと思います。

（C 委員）

各項目で指標がいくつか載っていますが、総合計画はめざす方向、羅針盤ということなので、今の地点がどこなのかを示した方が良いかと思います。指標に直近の値を併記してはどうでしょうか。

(事務局)

本編とは別冊で、指標集を作ろうと考えています。指摘の通り、計画の中ではその点はわからないので、巻末掲載も含めて見せ方は検討します。

(C委員)

指標について、8割達成できているところから、目標を目指すのか、2割達成しているところから目指すのかでは違うので、その違いが見えると良いなと思います。

(会長)

事務局で検討いただけますでしょうか。

(H委員)

37 ページの多様な学びに対応した具体的な教育環境づくりについて、お金がかかることなので難しいと思いますが、少人数学級を世界基準に合わせていくという事を進めると最適な教育環境づくりができるので、その点も検討してもらえればと思います。

(I委員)

取組目標1で少子化のことは書いていますが、どんなこどもの現実や問題があるか、こどもがどういう行動をとっているか、どういうこどもがいるかという背景が書かれていないので、そこを何か示せないかなと思います。指標を見ても、これを達成することが目標を達成することになるのかがよく見えないと思います。我々は議論をしているからわかりますが、取組方針1はいきなり出てきているように見えるので、背景の部分が書けたらなと思います。

指標について、「～と思う」「～と感じる」など心理面での指標が多くなっており、行動面に関する指標が少ないと思います。行動の指標があってその蓄積で動いていくと思うので、指標の部分が少し足りないと感じました。

(会長)

「気づく」指標があるが、「考える、行動する」の指標がないとの指摘ですが、事務局いかがでしょうか。

(事務局)

「考える、行動する」に関して、これまで経年値を把握していません。総合計画は羅針盤として、状態指標を書いています。施策を見直す中で、アウトプットの指標を細かい事業施策は追っていかないといけないと考えているので、管理用に調べていこうと思っています。

(I委員)

指標はあるものから探すのは難しいので、やりながら改編、手を加えることはあると思います。年々充実させていく上で、どういうこどもの未来像をつくり出すかということにつながるので、これからつくり出すことで上手く示していただきたいです。

(B委員)

36 ページ以降にある取組の方向性について、「充実」で終わっているところが多いように思います。読んでいくと、これは今ないのかという気持ちになります。それなりにやってきたものは、拡大とか増加など表現をしても良いかなと思います。この評価の中では、これまで過去のことが感じられないと思います。言葉の選び方を工夫して、この指針に沿ってやっていくいいよねということが書いてあると、とシビックプライドの向上になると思います。

(J委員)

書いてあることは正しいと思いますが、教育現場は教員も児童もどんどん苦しくなってい

ます。どこか抜く部分もつくっていくことが必要かなと思います。

（会長）

通信制に逃げていくという事とも関わりがあるのかなと思います。愛知県も中学校3年生に希望調査を実施していたが、全日制が9割を切る状況で、通信制を選択する子が約4パーセントに増えています。教育環境の在り方として、抜ける場所、多様なという視点も検討できればと思います。

それでは次に取組方針2について、46 ページ取組目標③から⑤都市の在り方についてご意見とご質問ありますでしょうか。

（H委員）

35 ページの施策について、水素にこだわりすぎて全体が見えなくなります。個人的には、再生可能エネルギー全体や脱炭素技術の普及と産業化に向けた内容も書いた方が良いと思います。

（事務局）

取組目標⑤脱炭素社会の実現の（1）の中に再生可能エネルギーについては入っています。（2）は前回審議会では、水素社会の実現ともう一つ、新たなエネルギーや技術の利活用も施策に入れていましたが、水素社会の実現に向けた取組は、新たなエネルギーとして水素のことで、そのために必要となる新しい技術の利活用が含まれるということで、今回は施策を一つにしています。その影響で水素が強調されて見えるのかもしれませんが。

今はこの形にしているので、脱炭素、再生可能エネルギーは（1）で取り組んでいきたいと思っています。

（H委員）

水素をつくる時にエネルギーがかかるので、水素社会が本当にいいのかという点は注意した方がいいと思います。

（事務局）

従来型の水素、ブルー水素だと、CO₂を排出するというのがありますが、豊田市はCO₂を出さない水素、グリーン水素を活用した社会を目指していきたいと考えています。

（J委員）

日本の「1.5℃ロードマップ」の中で、最終的に日本のエネルギーの半分は、沖合を中心とした洋上風力になるとしています。貯めるのは蓄電池を使い、水素にするので方向性は間違っていないです。将来的に、半分以上は再生可能エネルギーになるので、そこを踏まえて書かれているので良いかと思います。

（H委員）

山間部に行くと、人が驚くほど車を使う傾向にあります。例えば歩いて少しの距離でも車を使っているので、その行動をどう変えていくかも考えないといけないと思います。例えば、車を数台持ったら炭素税をかける、車が増えるごとに税金を増やすなど、何か市民の行動様式を抑制することも書いてはどうかと思います。

（事務局）

抑制したいのではなく、サービスが整った上で行動や移動の変容が起きるのが一番だと考えています。抑制という形では、表現したくないと思っています。

（会長）

こどもたちの体力の調査結果を見たが、豊田市では全国平均と比較しても体力がないといわれています。学校は、アスリートの体育指導や技術指導もしていますが、生活習慣が車中心なので、学校で技術指導しても普段から歩かないという状況があります。こどもや高齢の方の健康も含め、車社会の在り方を考える必要があります。どういつながりをつくっていくかということから考えることが大切で、例えば全体構想として、どんなつながりが出来上がっていくか見えるようになるとうわかりやすいと思います。

(K委員)

山村部はバスの本数も少なく、足がなくて困っている高齢者も多いです。その中で制御するのはありえないと思います。計画全体としては、これまでの意見も踏まえてよくまとめてくれていると思います。

(G委員)

山村部の持続可能な暮らしの仕組みづくりも書いているが、主体は誰かということです。全ての集落が永続することはあり得ないので、消滅する集落が出てきます。消滅するかどうかは、そこに住む住民が決めることです。そういう点で、集落の自治をどうつくっていくかという視点が大切です。

利便性の高い地域への集約という話もありますが、それがウェルビーイングなのかというと、利便性＝ウェルビーイングではないです。行政が主導してしまうと、自分たちでつくり出す意識がなくなります。主体は住民であり、例えば旭地区では行政がサポートしながら集落が主体となって計画を作った時期がありました。それが旭地区の今の自治活動のスタートになっています。地域自治を育むために、山村地域の持続可能な暮らしをつくれるような支援をするのが行政の立場です。山村地域に住む住民としては、自分たちのことは自分たちで決めていくという合意形成をするうえで、行政はサポートしてほしいと思います。

(会長)

集落に生きる人の自己決定、それをどう支えていくか。そういう議論を施策化していくことが望ましいです。行政の役割は、集落に寄り添い一緒に考えることであり、集落のプライドが保たれることが望ましいです。その意味で、総合計画を通して市民の方がつながることで、一人ひとりが、自らが生活を担い地域を担い、それを行政が支えるということで新しいまちが出来上がっていくと思うので、施策化については検討してもらえればと思います。

では、本編全体に関して何かご意見ありますでしょうか。

(I委員)

こどもの体力のことですが、36、37 ページに体験機会の充実として、多様な学びに対応した最適な環境づくりなど新しいことが書いてあります。こども同士のつながりをつくる環境についても書き込んでもらえればと思います。例えば、友達が多いこどもの方が、体力が高いといった傾向もデータで出てきています。そういう教育やチャンスを増やす方が、こどもの成長につながる可能性が高いと思います。新しい取組を実施するのであれば、つながりを高める方向性がいまいかなと思います。

(会長)

他にご意見なければ、事務局から報告をお願いします。

■ 報告 計画の推進に当たって【資料②】

○事務局 資料②に基づいて説明

(会長)

今後の計画の推進にあたっての説明でしたが、皆さんからご質問ご意見ありますか。なければ、最後に意見交換ができればと思います。

■ 意見交換

(L委員)

総合計画はいいことが書かれているので、中身に対して異論はないです。市民全員が知るべきと思っていますが、資料のアンケート、モニター結果を見ると、70 パーセントの人が知らないと回答しています。計画を実行する大前提として、計画を知ってもらうことが重要と思うので、そこを検討いただき、進めていただきたいと思います。

(事務局)

今回の策定を通じて、様々なところでご意見を聞かせてもらいました。そこでも全然知られていないということがわかりました。計画ができた後が重要なので、施策の見直しにあたって総合計画自体を知ってもらい、それを通じて意見を頂くことが重要だと思っています。

(会長)

知ってもらい、市民が担っていくと思えるような周知の仕方をお願いします。

(M委員)

よくまとめていただいたと思います。話を聞いている中で、温故知新という言葉思い出しました。何でも変革するのではなく、過去はしっかり学んで大事なものをしっかり残した上で、単純に古いものを切り捨てるのではなく、地域や交通の話もありましたが弱い方の立場に立った目線も欲しいなと思いました。

(会長)

それでは審議はここまでとさせていただきます。本日は皆さんのご意見を踏まえ、来月市長に答申を行います。最終のとりまとめについては、会長と事務局にご一任いただきたいと思いますよろしくお願いします。

(全委員)

異議なし。

(会長)

では、本日の議題は以上となります。ありがとうございました。

○事務局

■ 企画政策部長あいさつ

昨年度から長期間に渡りご協議いただき、貴重な意見を賜りありがとうございました。最終案について会長と取りまとめていきたいと思っています。よろしくお願いします。

■ 事務局連絡

○事務局 次回答申日程

: 令和6年11月12日開催

■市長挨拶

ありがとうございました。多様な意見をいただき、まさに作り続ける総合計画だと思いました。これでいいという計画はないと思います。都市内分権地域自治システムを合併時に構築しました。あの時の狙いは、地域力をつけていこうということでした。元々コミュニティ施策は伝統的に力を入れていましたが、更に地域の自己決定権を強化していこうという方向でした。あれから約20年経ち、人口減少に突入し、全国同じ状況の中で、頑張れば人口の取り合いになるということになります。その中で、委員の発言にもあったように集落を閉じるということも目の前に迫っています。その時に、自己決定できる地域なのか住民なのかが極めて重要になってくると思っています。

今回の総合計画の根底にはそういう背景があると思っており、地域自治システムも次の段階に入っていると思います。本当に人口が減っていく中の地域自治、住民自治がどういう在り方なのか、そのためにどういう仕組みを打たないといけないのかというのが求められており、行政としても方針を出さないといけない段階にきています。引き続き、豊田市の総合計画の動きをご覧いただきたいです。これで終わりではなく、作り続ける総合計画に間違いはないと思っています。引き続きのご指導よろしくお願いします。

(終了 午後3時57分)